

岡山実験動物研究会の再出発（その5：2011年度）

三谷 恵一 *Keiichi Mittani, Litt.D.*

岡山実験動物研究会会長

特色ある岡山実験動物研究会

The *Okayama Association for Laboratory Animal Science* was established in 1983, and is maintained by the researchers and technicians who belong to universities, institutes, or companies mainly in Okayama prefecture of Japan and are engaged in Laboratory Animal Science. This association holds scientific meetings in Okayama twice a year, and publishes an annual journal.

The aims of this association are :

- to promote exchange of knowledge on Laboratory Animal Science among researchers and technicians the fields of medical, pharmaceutical, agricultural, and biological science:
- to promote friendship and collaboration among the researchers and technicians in Laboratory Animal Science:
- to contribute to the development of Laboratory Animal Science:
- and to promote ethical care and humane use of animals in research through recognition of scientific responsibilities. [by 国枝哲夫常務理事 岡山実験動物研究会 HP より]

研究会会長あいさつ

1. 本研究会は、特別講演・招待講演・会員による研究発表を中心とする会合を年2回開催しています。本研究会に参会することで、見聞を広め、懇親会を通して会員同士や企業関係者とお友達になれます。人類と動物の幸福のために、日夜研究に勤しむひとりひとりの自己実現(self actualization)を目標とします。
2. (株)クラレ・くらしき研究センターの嶋村三智也理事のご配慮により平成19(2007)年より、日英バイリンガルの念願のホームページが立ち上がりました。研究会場の光景や各発表者の姿も登場します。
3. 研究会組織のページを開いて戴くと、賛助会員(研究会助成企業)として全国20社近くが名を連ねていることが一目瞭然となります。賛助会員様には、無料でA4広告掲載いただいています。
4. 学術誌として毎年1回発行する『岡山実験動物研究会報』は、全国的評価は高く、第1号~27号までを積み重ねますと厚さ10センチ以上となり、バックナンバー製本2冊化も達成し、国会図書館にも導入されました。編集作業につきましては、佐藤勝紀元会長に御奉仕いただいています。
5. 三谷恵一会長の尽力により「岡山実験動物研究会報」のバックナンバーのすべてを岡山大学学術成果リポジトリへ電子媒体化し、何号の何頁でも瞬時に世界のどこからでもダウンロード可能となり永久に保存されています。
6. 本年は、研究会創立30周年を迎えます。年末の第64回には記念写真をHPと会報に掲載して楽しいパーティをいたしましょう。
7. 我が国は、昨年3月11日第3の敗戦を迎えました。生命科学(life science)に携わってきました私たちの責任と使命は誠に大きいのがあります。これを機会に、会員数がますます多くなり、実り多い研究会へと更に発展させて参りましょう。

2011(平成23)年度の活動

- 第61回岡山実験動物研究会 2010年7月2日(金)
13:30~17:45 岡山理科大学
- 特別講演 1 (社)日動協の実験動物技術者認定制度の概要と今後の展望
大和田一雄 ((社)日本実験動物協会・認定専門委員会委員長、山形大学医学部、(独)産業技術総合研究所 研究環境安全本部)
- 一般講演 マウスにおける亜種間雑種の雄性生殖細胞に生じた減数分裂の異常の解析
西野里沙子・辻 岳人・国枝哲夫(岡山大学大学自然科学研究科動物遺伝学教室)
- 賛助会員による講演 最新の実験動物用マイクロCT装置 ~R_mCT2 製品紹~
濱中 功((株)リガク)・細井 實((株)メディケアー)
- 特別講演 2 ナメクジウォオ奮闘記-頭索動物ナメクジウォオの飼育と研究-

安井金也 (広島大学大学院理学研究科生物科学専攻)

* 今回の研究会は出席者数 101 名と盛會理のうちに終了致しました。実験動物技術者認定『特例』の講演があったことから、岡山理科大学の学生さんが多く出席されました。また、学術講演においても活発なディスカッションが交わされました [by 嶋村三智也理事 岡山実験動物研究会 HP より]。

第 62 回岡山実験動物研究会 2011 年 11 月 25 日 (金) 13:30~17:30 ピュアリティまきび

賛助会員による講演 動物実験施設等における脱臭・除菌を目的とした光触媒技術の応用

高岡 秀 (昭和セラミックス(株))

特別講演 1 植物培養細胞を活用して基礎研究と産学連携研究を追求して

濱田博喜 (岡山理科大学理学部臨床生命科学科)

特別講演 2 実験動物と動物実験について今思うこと

西川 哲 (独)放射線医学総合研究所・研究基盤センター)

名誉会員の推戴 倉林 讓氏 (前岡山実験動物研究会 会長 前森ノ宮医療大学保健医療学部教授 岡山大学医学部客員研究員)

* 今回の研究会は出席者 55 名、懇親会は 25 名の参加となり、講演から懇親会にかけて講師の方々と参加者の間で活発なディスカッションや情報交換が行われました。また、当研究会に対する長年の功労が称えられ当研究会役員倉林讓氏が名誉会員として推戴されました [by 嶋村三智也理事 岡山実験動物研究会 HP より]。

おしらせ

・賛助会員の広告を掲載いたしています。奮って広告を多数お寄せ下さい。東日本大震災の影響は、それぞれの会員にさまざまに影響していることでしょう。いかなる状況にあっても、人々と動物の幸福の道を勇気を出して歩まれますようお祈りいたします。
・岡山大学名誉教授/環太平洋大学名誉教授/岡山心理学会名誉会員・理事/中国四国心理学会名誉会員/京都大学文学博士の三谷恵一会長(74)は、環太平洋大学次世代教育学通信教育課程非常勤講師です。

自宅の新メールは k.mittani@bronze.ocn.ne.jp です。

論文 [電子化したもの:A群] [岡山実験動物研究会 HP→製本した研究会報の写真をクリック→出力可]

三谷恵一 1985 経験に基づく実験動物の行動変容
岡山実験動物研究会報 第3号 19-23

三谷恵一 1994 Change of Physiological and Psychological functions based on the combination of early and late experience. 岡山実験動物研究会報 第11号 16-23.

三谷恵一 2001 生態学的動的視野においては水平線分の誘目性は垂直線分の誘目性よりも高く、両パターンとも右視野中心で視覚走査される 岡山実験動物研究会報 第18号 33-39.

三谷恵一 2002 脳と知覚学習—環境心理学の再発(1) 岡山実験動物研究会報 第20号 12-21.

三谷恵一 2003 脳と知覚学習—環境心理学の再発(2)—パターン認識における単一細胞レベルの研究と行動科学レベルの研究との対応と差異ならびに左半球 BROCA 領野の関与 岡山実験動物研究会報 第21号 10-18.

三谷恵一 2010a ゼブラフィッシュは生得的に「円」パターンを避け「倒立三角形パターン」を視覚的に求める 岡山実験動物研究会報 第26号 37-40.

[電子化したもの:B群] [環太平洋大学 HP→図書館→リポジトリ→カラー出力可]

三谷恵一・志田久美子/山崎 瞳 2008 家庭と学校の間関係の新主観的障害単位(新 SUD)に及ぼす“発話領域”の新漸進的弛緩法(新 PR)の効果 環太平洋大学研究紀要 創刊号 37-51.

三谷恵一 2009 28 項目新主観的障害単位: SUDs 環太平洋大学研究紀要 第2号 21-30.

三谷恵一 2010b “左手”とバーチャルブラッシングの角度による困難度の比較研究 環太平洋大学研究紀要 第3号 1-12.

三谷恵一 2011 「キャンドルのあかりと白熱灯間接照明をミックスさせた照明」が生理的にも心理的にも最も効果的である 環太平洋大学研究紀要 第4号 35-47.

本年 4 月末発売 新しい認知行動療法と環境療法: 脳-神経-筋肉-骨ネットワークの健康科学 おうふう 420 頁 4,150 円



新しい認知行動療法と環境療法

三谷恵一著

New Cognitive Behavior Therapy and Environmental Therapy
Health Science of "Networks of Brain, Nervous System, Muscle and Bone"
新しい認知行動療法と環境療法

脳-神経-筋肉-骨ネットワークの健康科学



三谷恵一著 (Copyrighted by Keiichi Miyata, Ph.D.)

三谷恵一著
Keiichi Miyata, Ph.D. (Copyrighted)

おうふう